

地域社会との共生

TOYO TIRE のSDGs (2030年のあるべき姿)

- 多様なリソースを活用して、地域の教育・文化レベルを向上させ、世界全体の安定的発展に貢献する。

優先的に取り組むべき課題

- 地域社会とのエンゲージメント
- 次世代育成支援活動の推進

優先的に取り組むべきと考える理由 (機会とリスク)

TOYO TIRE は、将来にわたって社会から必要とされる企業となるには、企業活動に関わる全ての人びと（ステークホルダー）と喜びを分かち合うことができる企業を目指すことが重要と考えています。また、持続的に発展していく上でも、環境問題の克服、人材の確保、地域経済の安定的発展は不可欠と考えています。そのためにはステークホルダーとの対話の機会を重視し、協働による地域課題・社会課題の解決と豊かな社会づくりに寄与することに取り組むべき課題と位置づけています。

2019年度の重要な取り組み

- ステークホルダーとのコミュニケーションの深化
- 次世代育成支援活動の推進



職業講話でタイヤに関するクイズを考える児童の様子

マネジメント手法

方針

TOYO TIREが持つリソースの活用とさまざまなコミュニケーションを通じたステークホルダーとの協働により、事業活動が影響を及ぼす範囲における環境保全や次世代育成支援、地域社会の発展に貢献することで、地域社会との共通価値を創造していきます。

また、事業規模の拡大に伴い、特に環境インパクトが大きいと予想される製造拠点では、その周辺地域の生物多様性への影響の増大リスクに対して、予防原則アプローチで取り組んでいきます。

目標

ステークホルダーとの協働によって社会的課題を解決し、共通価値の創造を目指します。

責任 (2020年4月現在)

コーポレート統括部門管掌執行役員

地域社会とのエンゲージメント

TOYO TIREは、事業活動が地域の経済・環境・社会に対して直接的な影響を及ぼすものと理解し、社会からの評価および期待を真摯に受け止めるとともに、全ての事業所において、積極的な情報発信や対話機会の創出をするなど、地域社会とのコミュニケーションを重視しています。そしてコミュニケーションを通じて得られたステークホルダーのニーズを正しく理解し、経営に反映するよう努めています。

例えば当社仙台工場では、地域への感謝と当社の事業活動について住民の方へお伝えする「地域ふれあいフェア」を開催しています。当日の来場者数は1,700名と例年通り多くの周辺地域の方や従業員の家族を迎えました。2019年度は当社が独自開発したドライブシミュレーターを体験いただき、タイヤを通じた安全啓発活動を行いました。また毎年好評の工場見学ツアーでは、当社のものづくりへの真摯な姿勢をご理解いただきました。



ドライブシミュレーター体験の様子

環境保全への取り組み

TOYO TIREは、事業活動が特に製造拠点の周辺地域の環境に対して、最も大きな直接的な影響を及ぼすものと理解しています。そのため、製造拠点では周辺地域のステークホルダーとの対話と情報発信によって、事業活動に対する理解と信頼を築くとともに、環境保全のための活動に取り組んでいます。そして生物多様性は地域の暮らしに直接的な利益をもたらす、持続可能な発展にもつながるものとして、地域の生物多様性保全を推進しています。

例えば、当社桑名工場では、NPO 法人「森林(もり)の風」の協力を得ながら、近隣の放置雑木林を整備する「TOYO TIRES 緑のつながり・三重」に取り組んでいます。活動 5 年目となる2019 年度は、継続してきた遊歩道の整備が完了し、地域住民とともに開通セレモニーを行いました。

また、本社では清流の維持や生物生息空間を守り育てる活動として、「猪名川クリーン作戦」に参加しています。自然環境の保全活動は地域の持続的発展へつながるため、地域を構成する一員として本社従業員とその家族の約20名がボランティアに参加しました。河川の清掃活動のほか、希望者を対象に昆虫観察会も行われ、地域との交流を深める機会となりました。



遊歩道の開通セレモニーの様子

地域社会の発展に向けた支援

TOYO TIREは地域社会を構成する一員の責任として、地域経済の活性化や被災した地域の復興に向けた支援を行っています。

米国のTTHAグループでは、クリスマスの期間に、従業員が集めたおもちゃを子どもたちに届ける、「ホリデー・Toy・ドライブ (Holiday Toy Drive)」活動に取り組んでいます。昨年に引き続いての実施となり、集まったおもちゃは地元の子ども病院で治療を受けている子どもたちや、退院予定の子どもたちに贈られました。

【2019 年度当社グループが行った被災地支援】

- 千年希望の丘整備復興寄付金(宮城県岩沼市)
- 令和元年台風第19号災害義援金(日本赤十字社)
- 2019年9月に発生したハリケーン「ドリアン」の被災地域に対する義援金
- 2019年9月に多発化したオーストラリアの森林火災に対する義援金

次世代育成支援

TOYO TIREは地域社会が持続的に発展していく上で、次世代を担う子どもたちの健全な育成が社会課題の一つであると考え、次世代育成支援のための寄付を行っています。

例えば、TOYO TYRE MALAYSIA SDN BHD では、勉強意欲が高くても、経済的理由で十分な学習環境に恵まれていない児童や学生に向けて、「奨学金プログラム」を2013年から実施しています。

プログラム開始からこれまでの間に、「学部生奨学金プログラム (Undergraduate Scholarship Program)」と「児童教育支援プログラム (Student Education Assistance Program)」として、地元の大学での学位取得を目指す26名の学部生と、小学生210名に支援を行いました。寄付金は総額で約249,000USドルとなり、書籍代や彼らの生活費として活用いただいています。

引き続き寄付による人材育成の支援を通して、地域全体の生活水準の向上と地域発展に貢献していきます。



奨学金プログラムを受ける児童の皆さん(TOYO TYRE MALAYSIA SDN BHD)

TOPICS

従業員が講師を務める 次世代育成支援



当社では、自動車産業の持続的な発展を支える人材の育成は、将来にわたって事業を継続し、モビリティを通じて社会を豊かにしていくためにも重要であると考えています。学生のものづくりへの興味、関心を高め、職業観を早期から育むため、2013 年より関西キャリア教育支援協議会*が主催する「情熱教室」へ賛同し、当社グループのリソースを用いた職業講話を行っています。

2019 年度は3校からの要請に応え、小学5年生、中学2年生、そして日本への留学生の計94名を対象に講話を行いました。こうした活動は、学生にものづくりの楽しさを伝え、働くことへの理解を深めてもらう機会となります。また講師にとっては自身のキャリアを見つめ、「伝え方」を考える貴重な成長機会となっています。今後も学生のモビリティへの関心を高め、次世代を担う人材育成に寄与できるよう継続して取り組んでいきます。

*小中高等学校におけるキャリア教育に関西の産業界・労働界から支援する組織